

戦後（1945～1950） その6

《リベラル政権下で誕生した建設省》

GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）のもとで、1946年（昭和22）5月、吉田茂が、旧憲法に従って総理大臣となり、そして終戦から1年後の8月16日、経済安定本部が設置され、国内行政の舵取りを担います。

1946年（昭和21）11月3日、日本国憲法が公布。翌1947年（昭和22）4月25日、第23回衆議院総選挙が行なわれます。その5日後の4月30日、GHQは、「内務省の分権化に関する覚書」を日本政府に出し、内務省改革案を6月1日までに提出するよう指示。

5月3日に、憲法が施行。吉田茂の自由党は選挙に負け、衆議院で第1党となった社会党の片山哲が、6月1日に組閣。片山内閣は、6月20日、内務省を民生省と名称を変え、官房、総務局、土木局、調査局とする改革案を閣議決定して、GHQに提出。

しかし、GHQは、この改革案に満足せず、6月25日までに対案を作成。この動きに、新内閣は、6月27日の閣議を経て、内務省を廃止し、新たに地方自治委員会、公安庁、建設院の3機関を設けると回答します。建設院は、内務省国土局、陸軍から内務省に移管された地理調査所、そして戦災復興院を合併して設立されることになりました。

9月16日未明、カスリーン台風による大雨が関東地方を襲います。12月13日、経済安定本部は、資源委員会を設置し、資源に着目した国土の総合開発を打ち出す部会を立ち上げ、その後、防災部会が増設されます。

内務省は、12月31日をもって廃止され、建設院は、翌1948年（昭和23）1月1日に発足。6月には、片山内閣が総辞職し、民主党の芦田均が組閣。そして建設院は、規模が大きいことから、7月に建設省へ昇格。（注1）ちなみに約1か月前、太宰治が、玉川上水に入水し自殺しています。（注2）

9月16日は、アイオン台風が来襲しますが、カスリーン台風を教訓として、建設省と中央气象台が共同で、日本初の洪水予報が出されました。

芦田内閣は、昭和電工事件（注３）により総辞職し、１０月１９日、第２次吉田内閣に代わります。

参考 時系列

１９４５年（昭和２０） 東久邇宮稔彦王 → 幣原喜重郎内閣 １１月戦災復興院設立
１９４６年（昭和２１） ５月２２日 吉田茂組閣
１９４６年（昭和２１） ８月１６日 経済安定本部
１９４６年（昭和２１） １１月 ３日 日本国憲法公布
１９４７年（昭和２２） ４月２５日 第２３回衆議院総選挙
１９４７年（昭和２２） ６月 １日 片山内閣誕生
１９４７年（昭和２２） ９月１６日未明 カスリーン台風による利根川破堤
１９４７年（昭和２２） １２月１３日 政令により、経済安定本部に、資源委員会設置
事務局長安芸紘一 土地・水・エネルギー・地下資源の４部会設置。同年中に、衛生・繊維・地域計画・防災の部会が追加。
１９４７年（昭和２２） １２月３１日 内務省が廃止
１９４８年（昭和２３） １月 １日 建設院発足
１９４８年（昭和２３） ３月１０日 芦田内閣誕生
１９４８年（昭和２３） ３月２９日 経済安定本部資源委員会第１回本委員会
１９４８年（昭和２３） ６月１３日 太宰治 自殺
１９４８年（昭和２３） ７月１０日 建設省設置
１９４８年（昭和２３） ９月１６日 日本初の洪水予報が利根川・荒川で発出
１９４８年（昭和２３） １０月１９日 第２次吉田内閣誕生
１９４９年（昭和２４） ６月 ４日 水防法
１９４９年（昭和２４） ８月３１日 キティ台風、東京湾高潮
１９４９年（昭和２４） 改修改定計画（北上川・江合川・鳴瀬川・最上川・利根川・信濃川・常願寺川・木曽川・淀川・吉野川・筑後川）
１９５０年（昭和２５） ５月 １日 北海道開発法
１９５０年（昭和２５） ５月２６日 国土総合開発法
１９５０年（昭和２５） アメリカで第１回国際海岸工学会

注1：建設省が誕生した背景として、（一社）全日本建設技術協会（通称：全建）の前会長松田芳夫氏は、内務省土木局長が、岩澤忠恭という、土木技術者としては古市公威以来の技官であったことに加え

- ①リベラルな中道政権であったこと、
 - ②GHQにニューディーラーが多く存在し技術者に理解があったこと、
 - ③内務省の文系の高官が公職追放となり、表面で活動できなかったこと、
 - ④全建という官庁建設技術者が、一大勢力を持って強力に運動したこと、
 - ⑤昭和22年4月の第1回参院選挙で全建委員長の兼岩伝一が当選し、国会審議に活躍したこと、
 - ⑥災害復旧や戦災復興の世論の期待があったこと、
- などを挙げています。

兼岩伝一は、東京大学土木工学科を卒業し、内務省に奉職。官庁技術者の地位が低いことを嘆き、内務省系の技術者の地位向上のため、全建を創設しました。

注2：太宰治（生没年：1909－1948）は、戦前から戦後にかけて活躍した作家。代表作は「斜陽」「走れメロス」など。愛人の富江と、玉川上水の三鷹市地点で入水自殺。

注3：昭和電工は、味の素の2代目社長が興した会社。戦前、アルミの国産化に成功。戦後、復興金融金庫から融資を受けるために、政府高官や政府金融機関幹部に対し贈収賄を行ったとされる。これが昭和電工事件（昭和電工疑惑）です。また後に、昭和電工は、阿賀野川沿川の工場からメチル水銀を出し、第二水俣病を引き起こします。現在、川崎市にある昭和電工（扇町）工場は、ナイトクルーズの人気スポットとなっています。

写真は、①建設省の発足（HP ジャパンアーカイブス「建設省の誕生」より）、②太宰治の自殺（Wikipedia に掲載写真「引き揚げられた太宰と富栄の遺体」）、③太宰治入水地点（geocities.jp/mitaka_makita/inokasira/inokasira-map より）



建設省（旧内務省土木局＋戦後復興院＋運輸省運輸建設部門）→平成13年国土交通省<http://www.mlit.go.jp/>

